

JCDA 研究会 2019 年度中間報告に対するコメント【S 1】

研究会：S1_いきいきムーン

研究テーマ：企業におけるニューロダイバーシティ(脳の多様性)の理解と雇用促進

あり方委員①

1. 中間報告に対するコメント

発達障がい者のスキルや特性のプラス面に着目して、発達障がい者の方に対する理解を深めることで、企業で働く発達障がい者の方と周囲で働く方の双方向の不安軽減を図る、という目的は大変興味深く、本研究の成果に期待しています。活動表や経費の実績を報告していただき有難うございました。一方で、研究会の成果としては少し分かりにくいように感じました。外部アドバイザーの方々等からどのような協力がいただけたのか、計画より質、量ともに幅広く進捗しているとは具体的にどのようなことなのかが読み取れませんでした。

2. 今後の活動に対するアドバイス

『いきいきムーン』WEB ホームページ作成、当事者や講演会を 2019 年 7 月から 2020 年 7 月までに 15 回実施するなど、活発な活動の様子が見受けられます。活動の内容はオープンダイアログと講演が主体で、今後の計画としても講演の企画をされるとのこと。研究会の活動ですので、外部アドバイザー、他協力者の他、当事者会、講演会受講者の方々の意見、コメント、等を本研究会がどのように受けとめ、検討し、どのようなアウトプット（成果）を示すことができるのか、について検討し、最終報告としていただくことを期待しています。

あり方委員②

1. 中間報告に対するコメント

目的である「発達障がい者のプラスの特性に注目する」ということ以前に、「発達障がい者への無理解や社会的偏見の理解」や「対話」の重要性に気づかれた点は 1 つの大きな成果だと思います。ただ、本研究の目的である「発達障がい者のプラスの特性に着目することによる当事者および関係者の不安軽減」に向けた活動の進展が中間報告から読み取れない点が惜しまれます。同様に、外部アドバイザーからの指摘とこれによる研究会の進展とのかかわりなど、具体的に報告していただくと分かりやすくなると思います。

2. 今後の活動に対するアドバイス

研究活動として、研修や講演が多いように見受けられました。研究会ですので、当事者・関係者の不安軽減や雇用促進という目的達成に向けて、具体的な手順（情報収集→分析・検証→結論→提言）を十分に検討して進めてください。この点については外部アドバイザーからヒントをいただくと良いと思います。発達障がい者のプラスの特性は、どうすると気づけるのか、どのように職場で共有して仕事に活かしていくのか、どうすると不安軽減につながるのか。これらが示されると素晴らしい研究になると思います。

JCDA 研究会 中間報告書【S 1】

研究会名 S1_いきいきムーン
作成者：志岐靖彦(座長 CDA148572)
1. テーマ（申請時の内容） 企業におけるニューロダイバーシティ(脳の多様性)の理解と雇用促進
2. 目 的（申請時の内容） 現在、日本の企業においてはダイバーシティの中でも、特にニューロダイバーシティと言われている発達障がい者の方とそのグレーゾーンの方(※以後、発達障がい者の方と略す)の、定型発達者以下のスキルや特性のマイナス面(凹面)に着目しているケースが多いのが実情である。そこで本研究会では、発達障がい者の方の定型発達者を上回るスキルや特性のプラス面(凸面)に着目して、発達障がい者の方に対する理解を深めることで、企業で働く発達障がい者の方と周囲で共に働く方双方の不安軽減を図る。さらに発達障がい者のプラス面のスキルや特性の理解が進むことによって、企業において真の意味でのダイバーシティが促進出来ることを提言する。
3. 申請当初の目標に対する実績 1年目に掲げた発達障がい者の方の理解は、単に医学的や精神・心理学的に発達障がいを理解するだけでなく、実際に100名を超える発達障がい者の方と対話を重ねることで、一人ひとりが親・教師・上司・カウンセラー・支援者から受けた無理解や社会的偏見を理解することが、より重要だった。特に発達障がい者の方を支援しようとして、カウンセラーや支援者が行うアドバイスなどは、発達障がい者の方にとっては、ある種の抑圧であることがハッキリした。支援しようとするのはなく、どれだけフラットな人と人との「対話」をすることが、何よりも大切であるということ、本研究会のメンバー全員が身を持って経験できたことで、この点においてのカウンセラースキルは向上出来たと思う。
4. 申請当初の研究計画・活動計画に対する進捗状況 <概要（全体的なコメント）> 外部アドバイザーの先生方、そして本研究会の活動を始めて広がったネットワークからのご協力者のおかげで、研究・活動ともに申請当初の計画より質量ともに、幅広く進捗していると思う。 <具体的活動> 5W1H形式の記載が望ましい 別紙「いきいきムーン活動表」を参照。
5. 外部アドバイザーの係わり方（誰がどのように係っているのか） 申請時に記載した通り医学分野からの片山泰一氏(大阪大学大学院教授)、心理分野からの宋知潤氏(桃山学院教育大学/体調不良により 2020 年より村田絵美氏(大阪大学大学院准教授)に交代)、当事者分野からの石橋尋志氏(さかいハッタツ友の会代表)は、大学の研究会や本業に支障のない限り、大阪在住のためほぼ毎回、研究会に出席。キャリア教育分野の松尾智晶氏(京都産業大学准教授)は、東京在住のためメール・ZOOMなどでフィードバックを頂いている。(コロナ以降は片山泰一氏は大阪大学大学院医学部教授という立場のため、通信のみのやりとりとなる) また本研究会が活動を始めて広がったネットワークから、三川俊樹氏(関西カウンセリングセンター理事)や前野哲哉氏(大阪市障がい者就業・生活支援センター所長)とも適時情報交換を行っている。
6. 今後の課題と計画 2年目の課題であるニューロダイバーシティを社会に働きかける課題に対しては、5月の西日本最大のハ

ローワークである梅田ハローワークを皮切りに、「発達特性と発達障がいの違い」と「発達障がい者と企業の方との意見交換会」のイベントを、厚生労働省大阪労働局管轄の主なハローワークで実施する予定だったが、新型コロナのため事実上開催出来なくなった。その後、厚生労働省大阪労働局からは、「発達特性と発達障がいの違い」の講演だけでも厚生労働省大阪労働局の職員向けに開催できないかと打診を受けた。しかし本研究会のテーマは、「企業におけるニューロダイバーシティ(脳の多様性)の理解と雇用促進」のため、現在は人事・採用担当者向け「ニューロダイバーシティ研修」としての開催を、障害者就労支援施設などで模索している。

また社会から発達障がい者の方への無理解や社会的偏見を無くすため、10月開催の「ハッタツエキスポ」の実行委員・参加団体として、「発達特性と発達障がいの違い」の講演を計画している。

7. 費用実績

別途「研究会支出実績」を参照。

CDA 研究会 2019 年度中間報告に対するコメント【S 2】

研究会：S2_高等学校へのキャリアカウンセリング制度導入研究会

研究テーマ：高等学校におけるキャリアカウンセリング制度の導入

あり方委員①

1. 中間報告に対するコメント

高等学校へのキャリアカウンセリング制度導入が必要ではないか、との仮説を立てた研究テーマとして関心があります。既に3回の研究会、合計20高校にアンケート調査を実施されていること、新型コロナウイルス感染症拡大による遅れを電話連絡等でリカバリーされたこと等は評価に値すると思います。キャリアカウンセリングの必要性を認めながらも、時間的な部分や高校生一人ひとりとの関りを掘り下げる余裕のないことを直視された、との表現から、総論は賛成ながら、実際には難しい状況という印象を受けました。

2. 今後の活動に対するアドバイス

本研究会が、高等学校へのキャリアカウンセリング制度導入が必要ではないかと考えた理由、アンケート結果（必要性の分類）、問題点・課題、その解決策、等を整理してみても如何でしょうか。単なる『必要性の確認』にとどまらないようにするためにも、『キャリアの専門家としての働きかけ』を含めたアクション・リサーチを期待しています。研究会の思いや対応案を伝え、高等学校側の共感が得られれば、おのずとキャリアカウンセリングのニーズ（期待）が高まり、必要性の優先順位が上がるのではないかと思います。

あり方委員②

1. 中間報告に対するコメント

外部アドバイザーからの指摘を受けて着実にアンケート調査を実施しデータを収集している点や、アクション・リサーチを実践されている点から、研究が順調に進捗していることがうかがえます。なお、今回実施したアンケート結果から、これは本研究の重要なポイントである「高等学校におけるキャリアカウンセリングのニーズ」や、アクション・リサーチがどのように実施されてどのような成果が得られたのかについて、中間報告では読み取れませんでした。この点が惜しまれます。

2. 今後の活動に対するアドバイス

本研究の目的からすると、アクション・リサーチは適したアプローチだと思います。ただし、具体的な実施方法が明記されていないので何とも言えないのですが、目的から外れないように、しっかりとリサーチと適切な実践がなされるようにマネジメントしてほしいと思います。アクション・リサーチから得られた情報や成果が、最終的に、生活指導・進路指導やキャリアカウンセリングの問題点の整理や、より持続的に実施できるキャリアカウンセリング制度の提言につながるよう、留意して進めてください。

JCDA 研究会 中間報告書【S 2】

研究会名 S2_高等学校へのキャリアカウンセリング制度導入研究会 成者：	作
1. テーマ（申請時の内容） 高等学校におけるキャリアカウンセリング制度の導入	
2. 目 的（申請時の内容） 高等学校におけるキャリアカウンセリング制度の導入に際して、どのようなニーズがあるのか、高校生活指導及び進路選択指導等において、日常の指導担当教諭の現状を把握し、有効的な関わりを通して社会に向けて、高等学校におけるキャリアカウンセリング制度導入の必要性を提言する。	
3. 申請当初の目標に対する実績 3 回の研究会を経て、北海道エリア全域の高等学校の中から、公立高校 8 校及び私立高校 12 高校の合計 20 高校にアンケート調査（キャリアアウンセリングの認知度及び実施の可能性）を実施した。コロナウイルスによる学校閉鎖で回収に大幅な遅れが生じたが、電話連絡等によりリガバリーし集計した。アンケート集計を踏まえて、札幌圏および帯広圏の高校に電話インタビューを実施（高校からのコメントを拾いながら現地調査、アクション・リサーチ履行依頼）した。その後 2 高校を訪問し、数回にわたり現地での高校教員並びに高校生へのインタビュー調査を実施した。	
4. 申請当初の研究計画・活動計画に対する進捗状況 <概要（全体的なコメント）> コロナウイルスによる学校閉鎖で計画進行にかなりの遅れが生じた。アンケート調査の集計が厳しい状況に直面した。インタビュー調査並びに教員と高校生との関係性を踏まえたアクション・リサーチを実践することは出来たが、高校の学校閉鎖後の時間および精神的余裕のなさを痛感した。 <具体的活動> 2019 年 9 月、11 月及び 2020 年 4 月：研究会実施（メンバー、専門家、外部講師招聘） 2019 年 12 月：北海道エリア 20 高校へアンケート調査表送付（郵送） 2020 年 4～6 月：外部アドバイザーの提言を受けアンケート未回収高校への電話連絡 2020 年 7 月：アンケート集計に伴う、インタビュー調査開始 （現地調査、アクション・リサーチ実施の依頼） 2020 年 7～8 月：高校内におけるインタビュー調査およびアクション・リサーチの実践 札幌静修高校、白樺学園高校（座長及びメンバーの 2 名で複数回実施）	
5. 外部アドバイザーの係わり方（誰がどのように係っているのか） 札幌大谷大学 社会学部 教授 平岡祥孝氏に外部アドバイザーを依頼。 専門の社会学、キャリア教育の観点からアンケート項目及び集計におけるコメントを拾うポイントを教授いただいた。さらに、現地調査における踏み込んだインタビューおよび アクション・リサーチでの情報共有等を相互確認した。特に、時間に制約を感じる教員に対してのアプローチはとても参考になった。	
6. 今後の課題と計画 キャリアカウンセリングの必要性を認めながらも、時間的な部分や高校生一人一人との関りを掘り下げる余裕のないことを直視した。キャリア教育プログラムは各高校の環境により大きく異なっている。札幌圏	

(札幌静修高校)、帯広圏(白樺学園高校)に加えて、
今後は高校内におけるインタビュー調査を踏まえて情報を共有し、アクション・リサーチを実践する。高校生が将来を見据えて「働くこと」や「生きること」を考えるためのキャリアカウンセリングの必要性を確認して行きたい。高校の教育環境の違いや、進学または就職と言う方向性の違いをどのようにまとめて行くかが課題であると考え。指導教員の現状をサポートするため、高校教員並びに高校生に対して、キャリアカウンセリングの体験を創り出して行くとともに、外部のキャリアコンサルタントの必要性を確認したい。

7. 費用実績

合計金額 ￥152,340-

<¥9,000- 会議費(3回の研究会の御茶代等) >

<¥93,640-旅費交通費(札幌圏、札幌-帯広の交通費等) >

<¥5,600- 通信費(アンケート調査郵送費等) >

<¥5,000- 消耗品費(封筒、コピー用紙等) >

<¥8,000- 資料の印刷、コピー代等) >

<¥2,100- 研究会開催の会場借用費) >

<¥29,000-業務委託費(専門家、アドバイザーへの交通費、謝礼等) >

JCDA 研究会 2019 年度中間報告に対するコメント【S3】

研究会：S3_これからを紡ぐ研究会

研究テーマ：更生施設（短期課程少年院）におけるキャリア支援へのキャリアカウンセラーからの提言

あり方委員①

1. 中間報告に対するコメント

本研究テーマはニッチ領域ながら社会的な意義があるものと期待しています。メンバー全員で現場を見学して現状と課題を洗い出し、外部アドバイザーからレクチャーを受けるなど、活動の様子が報告書を通して伝わってきました。一方で、本研究会発足に際して着目したものと洗い出した現状と課題の関連性はどうだったのか、具体的な事例によりメンバーで検討したことはどのようなことだったのか、が読み取れませんでした。今後の具体的なプログラム開発、実施、評価などを含め、研究の成果を楽しみにしています。

2. 今後の活動に対するアドバイス

本研究会発足に際して着目したものと、現場見学をして洗い出した課題の関連性はどうだったのか、プログラム開発のポイントをどのように捉えたのか、今後計画されているオンライン会議で活発に議論する論点は何か、等を整理してみても如何でしょうか。研究の成果を発表される際には、本研究を通してメンバーが考えたこと、活動を通して生まれたアイデアや思い（熱意）をどのようにプログラムに盛り込んだのか、等についても示していただくことを期待しています。

あり方委員②

1. 中間報告に対するコメント

少年院の見学と支援の現状・課題を洗い出すための「現状把握（ヒアリング）」を実施されて、出口支援に関するセミナー開催という実績をあげた単は素晴らしいと思いました。ただ、1回の現状把握で十分な情報を得られたのかがやや気になりました。また、セミナーの現場教官からの反応はどのようなものであったのでしょうか。今後、研究目的である「就労支援プログラムの充実化」を図るわけですから、従来プログラムの評価や現場教官あるいは対象者からのヒアリングなど、十分な調査が得られているのか少々気がかりになりました。

2. 今後の活動に対するアドバイス

本研究会の目的は「就労支援プログラムの充実化とキャリア形成支援の提言」ですから、前述の通り、現状プログラムの課題についても十分に調査し、補足・強化する内容や、それを行う手順などを検討する必要があります。就労支援プログラムは、単なる1回限りのセミナーではなく、厚生施設の利用時から終了、あるいは終了後の一定期間までを支援するような長期的なプログラムとなることが理想のように思います。この点も一度想定しつつ、現実的にはどこまでできるかを検討してプログラム開発をすると良いのではないのでしょうか。

JCDA 研究会 中間報告書【S 3】

研究会名 S 3 _ こ れ か ら を 紡 ぐ 研 究 会 作成者：大山 佳子
1. テーマ（申請時の内容） 更生施設（短期課程少年院）におけるキャリア支援へのキャリアカウンセラーからの提言
2. 目 的（申請時の内容） 更生施設で行われている就労支援プログラムをさらに充実し、キャリア形成支援への具体的な提言を目的とした、研究活動を行う
3. 申請当初の目標に対する実績 ・更生施設より要望のあった、現場教官に対する、出口支援の重要性を伝える教官向けセミナー実施（1回） ・就労支援プログラム開発について、メンバー内での意見交換
4. 申請当初の研究計画・活動計画に対する進捗状況 <概要（全体的なコメント）> メンバー全員で、少年院（短期）を見学し、支援の現状と課題を洗い出した。アドバイザーより、「10代の陥りやすい非行へのきっかけ」について、レクチャーを受け、学校と縁がなくなると、一気に居場所が限られてしまう現状や、働く必要があるにもかかわらず、支援が少ない現状への理解を深める。また、更生施設より要望のあった、現場教官に対する、出口支援の重要性を伝えるプログラム開発に着手。 その後、「現場教官向け出口支援の重要性を伝えるセミナー」開催を目指し、外部アドバイザーとセミナー内容を共同で検討。コロナの影響で、オンライン開催となり、セキュリティ上メンバー参加が不可となったため、実施は田中氏に依頼。反応に関してはヒアリング。今後の展開についても検討を進めている。 <具体的活動>5W1H形式の記載が望ましい ・2019年10月21日 スタートアップミーティング（名古屋市内会議室） 10代の陥りやすい非行へのきっかけについて、具体的な事例によりメンバーで検討 ・2019年11月19日 豊ヶ丘学園へ訪問 外部アドバイザー（小柴園長、田中伸子氏）により施設紹介・施設見学・課題の共有 更生教育の現状についてのヒアリング ・2020年5月21日 オンライン開催（豊ヶ丘学園教官対象） 「出口支援を考える」（オンライン開催のため 講師は外部アドバイザー：田中氏） 開催プログラム内容をメンバーと田中氏アドバイスにより共同作成
5. 外部アドバイザーの係わり方（誰がどのように係っているのか） 小柴直樹氏（豊ヶ丘学園園長）：具体的な情報交換における責任者 田中伸子氏（社会福祉士・スクールカウンセラー）：福祉的な視点での助言・セミナー実施 宮本曜爾氏（弁護士）：活動についての助言を依頼（電話）
6. 今後の課題と計画 4月に小柴氏が異動となったが、今後に関して支援をいただけることとなった。就労支援プログラムについて、具体的にプログラムを開発し、実施・評価を受ける予定としている。（岡山での実施も視野）メンバー間のやり取りはこれまでMLで行ってきたが、今後はオンラインを使ったやり取りに変更。さらに活発に議論していきたい。
7. 費用実績 15,329円

JCDA 研究会 2019 年度中間報告に対するコメント【S 4】

研究会：S4_治療と仕事の両立支援 ～調査からみえる実態と可能性～

研究テーマ：治療と仕事の両立支援

「罹患経験者及びその家族におけるキャリアコンサルティング活用場面の実態調査」

あり方委員①

1. 中間報告に対するコメント

段階的な目標（マイルストーン）が設定されていること、1年目の実態調査でアンケートを実施しデータ分析中であることの中間報告に加え、全12回の会議の目的、外部アドバイザーの関わりなどが端的に示されており、活動の状況が良く伝わってくる透明性の高い報告書だと思いました。今後の計画として、JCDA ジャーナルへの活動報告の掲載、JCDA 研究報告への最終報告も視野に入れて具体的に検討されているのも評価に値すると感じました。研究成果の発表を期待しています。

2. 今後の活動に対するアドバイス

本研究テーマの目的は、キャリアコンサルティングの活用方法とその有効性を明らかにすること、と述べられています。研究発表に際して、活用方法やその有効性に着目した背景（理由）、アンケート結果のデータとの関連づけ（どのように捉えたり、考えたり、そして今後どのように生かせると思ったのか）を反映していただくことを期待しています。本研究を通して得られたポイントや研究会メンバーの思い（熱意）がガイドブックに込められて社会へ発信していただくことを楽しみにしています。

あり方委員②

1. 中間報告に対するコメント

3つの目標のうちの1つである「治療と仕事の両立支援の実態調査」について、3000人の調査と分析を堅実に実施された点や、並行して外部アドバイザーの助言を積極的に受けている点は素晴らしいと思いました。さらに、JCDA ジャーナルを用いて中間的アウトプットを計画されている点は具体的であるとともに、会員に向けたオープンな活動であり、好ましく思いました。分析がやや滞っている点が気になりますが、外部アドバイザーからの協力を得て、次のステップにつなげてほしいと思います。

2. 今後の活動に対するアドバイス

今回の実態調査から得られたことを有効に活用して、次のステップであるヒアリング調査、キャリアコンサルティングの有効性、ガイドブックの作成へとつなげていただきたいと思います。特に、キャリアカウンセリングの有効性をどのように測定するのか、また、どのような行為が有効であるのかなど、定量的および定性的の両方の視点から調査・分析をすることをお勧めします。これによって、より有益なガイドブックの作成につながると思います。期待しています。

JCDA 研究会 中間報告書【S 4】

研究会名

S4_治療と仕事の両立支援～調査からみえる実態と可能性～

作成者：砂川未夏及び研究会メンバー

1. テーマ（申請時の内容）

治療と仕事の両立支援 「罹患経験者及びその家族におけるキャリアコンサルティング活用場面の実態調査」

2. 目的（申請時の内容）

キャリアコンサルタント有資格者を対象に、キャリアコンサルティングの活用方法とその有効性を明らかにする。

具体的な対象者は、罹患経験者もしくはその家族のキャリアコン有資格者、そして有病者やその家族からキャリアの相談に乗った経験のあるキャリアコン有資格者（企業、行政、人材紹介、知人・家族など多様な立場を含む）とする。

3. 申請当初の目標に対する実績

■当初の目標

1. キャリアカウンセラーの治療と仕事の両立支援における実態を明らかにする。
2. 企業領域のキャリアカウンセラーへのヒアリング調査を行い、具体的な支援実例を把握するとともにキャリアコンサルタント有効性を明示する。
3. 実態調査結果とヒアリング調査結果をもとに、キャリアコンサルタントへ共有するだけでなく、罹患経験者やその家族へ向けたキャリアコンサルタントを活用するガイドブックを発行し、社会へ発信していく。

■実績

上記目標 1 について、アンケート調査を実施した。概要を次項に示す。

4. 申請当初の研究計画・活動計画に対する進捗状況

<研究計画・活動計画概要>

■研究計画・活動計画概要

- 1 年目：キャリアコンサルタントの実態調査を行う。
- 2 年目：企業 CDA を中心に治療と仕事の両立支援におけるインタビュー調査を進める。

■進捗状況

JCDA 会員において「働く世代のがん患者・経験者への治療と仕事の両立支援」が実際にどの程度行われているのかについて現状を把握するために、調査を実施した。概要は以下のとおりである。

【調査テーマ】調査対象と仕事の両立支援「はたらく場における罹患患者及び罹患経験者に対するキャリアコンサルティング活用場面の実態調査」

【調査対象者】JCDA 会員 18,464 人。

【調査方法】質問紙法（Web アンケート）

【調査実施期間】期間：2020 年 4 月 24 日～5 月 7 日

【質問項目】16 項目からなる質問紙調査を行った。内容は以下のとおりである。

- 1) 属性に関する項目 6 問（性別、年齢、支部エリア、資格取得年数、主に就労している職場、キャリア支援者としての活動領域）

2) 両立支援についての理解を問う項目 1 問

3) 過去 5 年間で“はたらく場”で相談を持ち掛けられた経験についての項目 2 問

4) 自由記述 7 問

例：①「キャリア支援者としてもし関わることがあったとしたら、どんなことか、あると良かったと思われるリソース」、②関わり の 程度、③治療と仕事の両立支援に関連した質問項目

【回答者数】3,028 人

【結果】分析を進めている段階である。

<具体的活動>

■キックオフ準備 1 回 (2019 年 8 月 8 日 (水))

議題：顔合わせ、キックオフ準備

■会議 12 回 (対面及び Web 会議 1 回・Web 会議のみ 11 回)

期間：2019 年 8 月 16 日 (金) ~2020 年 8 月 29 日 (土)

議題：

- ① 研究の全体像について、名称決定、会計係決定
- ② アンケート調査の目的と進め方、アンケート調査項目の検討、今後の流れ等の確認
- ③ アンケート調査会社の概要、アンケート調査項目の検討と今後の流れの確認
- ④ アンケート調査項目の検討
- ⑤ 石塚先生からの助言をベースにアンケート調査項目の決定に向けた各種調整
- ⑥ アンケート問い合わせ対応について
- ⑦ 調査結果と感想の共有。データ分類方法と分担の決定。
- ⑧ アンケートデータ分類の進捗報告①分担チームごとの分類方法等の進捗状況
- ⑨ アンケートデータ分類の進捗報告②分担チームごとの分類作業の進捗状況
- ⑩ 中間報告の最終化に向けて各チームよりヒアリング調整。今後の各チームの分析に向けた打ち合わせ日程の調整。今後の研究の方向性について相談。
- ⑪ 中間報告のための分担割等と 2 年目の方向性について
- ⑫ 研究の基本のきを理解する、今後の方向の意識合わせ。中間報告の確認

5. 外部アドバイザーの係わり方

石塚典子氏

【所属】筑波大学 人間系 客員研究員【学位】博士 (医学)・修士 (心理学)【資格】臨床心理士・公認心理師・キャリアコンサルタント・産業カウンセラー等

■対面での助言 3 回

期間：2019 年 8 月 8 日 (水) ~2020 年 8 月 29 日 (土)

内容：

- ① 顔合わせ & 研究会立ち上げに向けた助言。
- ② 調査アンケート質問項目と設計についての助言。
- ③ 研究の基本のきをレクチャーおよび助言。

■メールでの助言 10 回程度

期間：2019 年 8 月 12 日 (日) ~2020 年 8 月 15 日 (日)

内容：

- ① 今後の進め方について助言。
- ② 予備調査に向けた進め方について助言やり取り。

- ③ アンケート質問項目に関する助言やり取り。
- ④ 面談後の修正内容について助言。
- ⑤ 途中経過の報告とアンケート実施に向けた助言。
- ⑥ アンケート質問項目最終確認。
- ⑦ アンケート回収結果分析についての助言。
- ⑧ アンケート回収結果分析中間まとめについての助言。
- ⑨ 2年目に向けた方向性、進め方について助言。

6. 今後の課題と計画

- ・2年目には企業 CDA を対象としたインタビュー調査を実施する計画であったが、1年目の調査で得たデータの分析が未完了であるため、計画の変更を視野に入れながら、引き続き進めていく計画である。具体的には、以下のとおりである。
- ・JCDA ジャーナル1月号に向けて：アンケート結果の定量データの部分を中心に紹介し、クロス分析を一部行って考察しまとめる。
- ・JCDA 研究報告に向けて：定量データおよび定性データの自由記述回答の分析をこれまで分類して実施してきたが、それらの分析手法を検討し春までにまとめる。考察で見えてきたことや課題から仮説を立て、企業 CDA へ個人インタビューを実施し、結果をまとめる。

7. 費用実績

旅費交通費：2019年8月 3,200円（都内メンバー対面の会議室レンタル）
会場費：2019年8月 6,067円（都内メンバー対面での会議室レンタル）
業務委託費：2020年3月 129,800円（アンケート調査をクロスマーケティングへ）
業務委託費：2020年7月 50,000円（石塚典子氏、研究会研究アドバイザー）
費用総合計：189,067円